

# 事業報告書

自 2019 年 4 月 1 日  
至 2020 年 3 月 31 日

公益財団法人日本学生航空連盟

2019 年度計画内容並びに報告

**I. 基本方針**

「青少年の心身の健全な発達と航空文化の発展に寄与する」という連盟の目的を達成するため、「安全なくして学生航空なし」の風土作り進め、以下を基本方針として連盟の公益事業を進める。

1. グライダーの安全運航を最優先し、安全管理を徹底する中で、訓練飛行、競技会飛行の指導を行う。
2. グライダー競技会を主催並びに後援する。
3. 航空スポーツの普及啓蒙、広報活動を幅広く展開する。
4. 地区法人と連携し、地区運営委員会、学生委員会の強化を図り、各地区の活動活性化を支援する。

**II. 公益事業**

**1. グライダースポーツの教育訓練並びに安全な教育訓練システムを維持・改善する。**

(1) 訓練指導

- ① 訓練所長・認定指導員の集団指導体制による地区ごとの安全運航を指導する。
- ② 各訓練所の情報を集約し、安全・効率的な訓練指導を行う。
- ③ 安全運航に関する諸規程、諸規則を改訂・実施する。
- ④ 訓練用共通シラバス・教材を継続更新(作成)し、利用を促進する。  
特に今年度はウインチ曳航の一般教材を作成する。
- ⑤ 運航管理の責任者と対応機関について、関連規程も含めて検討を継続する。
- ⑥ 地区の要請に応じ指導員(飛行、整備)を各地区へ派遣する。
- ⑦ 地区の要請に応じ指導員研修会・会議等へ役員を派遣する。
- ⑧ 操縦教育証明資格取得者へ取得費用の経費助成を実施し、10名を目標に若手指導員を育成・増強する。
- ⑨ 連盟認定指導員を育成・任命する。
- ⑩ ソアリングに特化したトレーニング(記録会)を妻沼

安全管理会議、地区内会議、通達連絡等を通じて継続的に実施

滑空スポーツ訓練実施規則、滑空場運航要領等の改正

継続的に実施

「ウインチオペレーションの注意事項」を作成

継続的に実施

競技会等へ派遣

担当理事を派遣(メンタル、スピ等研修会)

教育証明 5名合格

継続実施

4月17日～19日実施 85回飛行

<p>滑空場において実験的に実施する。</p> <p>⑪ 操縦飛行経歴を保有し、飛行に空白期間がある指導員に復帰プログラムを提供する。</p> <p>⑫ 安全かつ効率的な教育訓練システムの改善について具体的取り組みを支援する。(訓練機材、シラバス、指導員等)</p>	<p>継続実施</p> <p>継続実施(安全担当理事)</p>
<p>(2) 航空従事者指定養成施設の運営</p> <p>① 自家用操縦士を年間 40 名目標に育成する。また、別途CAB受験者を 20 名育成する。</p> <p>② 各校合宿時のコース開設を基本とし、事務局がコース運営のため指導員、機材、技能審査などのスケジュール調整を実施する。</p> <p>③ 学科・実技教官(3名)の新規任用を進める。</p> <p>④ 航空従事者指定養成施設関連規程の改訂・管理を実施し、制度の適切な運用を図る。</p> <p>⑤ 安全管理会議、教官会議、担当者会議を実施する。</p> <p>⑥ 指定養成テキストを継続的に改正する。</p>	<p>指定養成 30 名合格(内 2 名明治) CAB18 名合格 外国 4 名合格 継続実施</p> <p>学科教官1名任用 継続実施</p> <p>安全管理会議:2/4 教官会議:10/3 担当者会議:10/3、12/23 継続的に改正実施</p>
<p>(3) 安全管理・教育</p> <p>① 安全情報(ヒヤリハット等)を各滑空場から収集し、情報共有化体制を強化させる。また(公財)航空輸送技術研究センター(ATEC)との連携を図る。(四半期に1回定期的集計・公開)</p> <p>② 「安全の日 5 月 17 日」を中心に、関連事業を実施すると共に安全管理規程を周知する。</p> <p>③ 安全管理指導を目的に安全管理会議兼訓練所長会議を2ヶ月に一度開催する。また、課題が発生した場合には臨時会議を随時開催する。</p> <p>④ 安全管理規程など関連規程を改訂する。</p> <p>⑤ 異常姿勢(スピン)からの回復訓練を実施する。</p> <p>⑥ メンタルトレーニングの研修会を開催する。(学生、指導員他)</p> <p>⑦ スローガン「2019 年度安全運航・事故 ZERO・365」を入れたポスターを作成する。</p>	<p>四半期毎ヒヤリハット情報を配布</p> <p>2019 年 9 月重大インシデント発生(概要報告 資料1)</p> <p>JSAL 通達 19-01 で周知、安全ポスターの作成配布</p> <p>4/16、6/11、10/01、12/17、2/4 3月については新型コロナウイルスの関係から中止</p> <p>継続実施</p> <p>スピン:年間4回実施 メンタル:年間1回実施</p> <p>安全ポスター作成配布</p>

<p>(4) 指導員等の認定</p> <p>① 認定指導員講習会を開催し認定指導員を認定する。</p> <p>② グライダーウィンチマンへの研修と技能確認、認定を行う。</p>	<p>5/27、6/3 実施</p> <p>外部講師:中西美和先生</p> <p>継続実施</p>
<p>(5) 講習会の開催</p> <p>① 会員を対象に滑空協会と共同し講習会(空域、気象、ソアリング等)開催・情報を提供する。</p> <p>② 学生向け自家用講習会を学生委員会と協調し実施する。</p>	<p>指定養成学科教育に合わせ実施</p> <p>同上</p>
<p>(6) グライダー、ウィンチ、その他関連機材の整備・購入を継続検討する。</p>	<p>妻沼滑空場ウィンチのダイニーマ化終了</p>
<p>(7) 公共サービスの提供</p> <p>① 妻沼、久住滑空場においてフライトサービス局を運営する。</p> <p>② 国土交通省試験官の技量保持訓練及び運輸安全委員会委員の体験飛行を可能な範囲内で受託する。</p> <p>③ 特定操縦技能審査を学生、指導員、社会人OB/OGを対象に運用(教材提供等)を行う。</p> <p>④ その他滑空場施設等の利用希望に対して柔軟に対応する。</p>	<p>継続実施</p> <p>試験官:2回に分けて6名実施</p> <p>運輸安全委員会:4名実施</p> <p>2019年度資料作成</p> <p>テレビ番組、ドローンテスト飛行等に対応</p>
<p><b>2. グライダー競技会の主催及び共催、後援</b></p> <p>(1) 主催競技会の日程を検討・決定する。</p> <p>(2) 久住山岳滑翔大会を8月に開催する。</p> <p>(3) 全日本学生グライダー新人競技大会を9月に開催する。</p> <p>(4) 全日本学生グライダー競技大会を3月に開催する。 (以上朝日新聞社と共催)</p> <p>(5) 各地区競技会(全国大会予選)を開催する。(後援:朝日新聞社)</p> <p>(6) 競技会規定・規則・細則等を必要に応じ改正を行う。</p> <p>(7) 中間技量レベルの全国競技会の2020年度開催を目処に2019年11月理事会(開催予定)において概要を決定する。</p>	<p>年度始に作成</p> <p>8月22日～27日に開催</p> <p>9月07日～13日に開催</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の 為中止</p> <p>10月～11月に地区競技会実施</p> <p>継続実施</p> <p>検討の結果:全日本学生クロスカントリー選手権大会:仮称の実施を決定</p>

<p>(8) 学生・卒業生による世界ジュニア選手権大会等への参加準備を検討する。</p> <p>(9) OLC(オンラインコンテスト)の活用を検討する。</p> <p>(10) その他競技会、対抗戦等を後援する。 原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会、東京六大学対抗グライダー競技会、その他加盟大学競技会、大野ローズカップ、ふくいザウルスカップ(仮称)等</p>	<p>2019 年世界ジュニア選手権へ理事1名を派遣視察</p> <p>継続広報</p> <p>後援依頼に対し実施</p>
<p><b>3. 航空スポーツの普及啓蒙</b></p> <p>(1) グライダースポーツ全般の広報活動として、新聞、書籍、テレビ、映画、その他メディアに対応すると共に、的を絞りアプローチする。</p> <p>(2) 機関誌「方向舵」等とホームページによる情報を発信</p> <p>① 機関誌「方向舵」を年間 2 回発行する。(149 号、150 号)</p> <p>② ホームページを通じて活動内容を広報する。</p> <p>③ 空域や航空法規など官公庁との調整結果を広報する。</p> <p>④ 気象、航空力学、滑翔技術などの関連技術情報、航空一般に関する知識や情報を提供する。(広報)</p> <p>⑤ 安全情報の公開および安全飛行の啓蒙を行う。</p> <p>⑥ 日本滑空記章、国際滑空記章の取得を推奨する。</p>	<p>朝日新聞社、日刊スポーツ、他テレビ</p> <p>継続実施</p> <p>発行済</p> <p>継続実施</p> <p>継続実施</p> <p>継続実施</p> <p>JSAL 通達、連絡、メールで周知 「方向舵」で推奨</p>
<p>(3) 滑空場・周辺地区との交流活動</p> <p>① 滑空場地域のイベント等に参加する。 妻沼(葛和田地区)小学校イベント、木曽川背割堤さくらまつり 等</p> <p>② 市民講座、親子講座など航空に関する講習会を支援する。</p> <p>③ 地元市民向け搭乗会を地区法人、加盟大学航空部、地元グライダークラブと連携し実施する。</p>	<p>小学校イベントに学生協力</p> <p>わくわく探検隊:8月6日実施</p> <p>各地区で1回~2回実施</p>
<p>(4) スカイスポーツフェスタ等への参加</p> <p>① 「埼玉スカイスポーツフェスタ」に、学連としての事業内容を企画し、主要団体として参加する。</p>	<p>2019 年度:天候により開催中止</p>

<p>② 「第回スカイフェスティバル小島」へ後援団体として参加する。(体験搭乗等)</p> <p>③ 「熊谷基地さくらまつり」へグライダー展示、デモ飛行に参加する。</p> <p>④ 小松基地祭へ他団体と協調し、グライダー展示、デモ飛行に参加する。</p> <p>⑤ 入間基地祭へグライダー展示、デモ飛行に参加する。</p> <p>⑥ 他地区のイベントに参加を検討する。</p>	<p>4月11日参加</p> <p>4月14日参加</p> <p>9月16日参加(地上、フライイン) フライインのモーターグライダー、曳航されたグライダー間の曳航索が落下し重大インシデント発生</p> <p>11月3日参加</p> <p>特になし</p>
<p>(5) 生涯スポーツの支援</p> <p>① 生涯スポーツとしてグライダーを継続するための支援体制を、下記の項目を中心に整備する。</p> <p>ア) 賛助会員へグライダースポーツの最新情報、飛行機会情報などを提供及び紹介を行う。</p> <p>イ) 賛助会員を中心としたグライダー搭乗会を実施する。</p> <p>ウ) 特定操縦技能審査を含め飛行や運航に関する助言を行う。</p>	<p>機関紙(方向舵)を配布</p> <p>7月13日、14日、15日開催</p> <p>資料作成</p>
<p>(6) 国際交流</p> <p>① 海外の国や機関との交流を検討し、学生が参加できる海外競技会・スクール情報を収集する。</p> <p>② 学生のソアリング受け入れ可能なクラブを視察するため、オーストラリア等へクラブ事情視察のため適任者を派遣する。</p> <p>③ 海外ライセンス取得クラブの実情を可能な範囲で調査する。</p>	<p>随時実施</p> <p>2019年8月ハンガリーセグド開催のWJGCに鈴木理事を派遣</p> <p>随時実施</p>
<p>(7) 航空機乗員養成協議会</p> <p>協議会メンバーとして「航空スポーツの普及啓蒙」に対する意見陳述を行う。</p>	<p>随時参加</p>
<p>(8) 一般社団法人 大学スポーツ協会(UNIVAS)</p> <p>(一社)大学スポーツ協会へ会員として参加する。</p>	<p>行事へ随時参加</p>
<p>(9) 全国クラブミーティング</p> <p>① ミーティングに参加し日本グライダー界の課題解決に寄与する。</p>	<p>11月MTGへ1名参加(浜松)</p>

② 社会人ライダー団体との連携を図る。	継続実施
<b>Ⅲ. 公益業務遂行体制と関連業務</b>	
<b>1. 訓練所の運営</b>	
(1) 妻沼、木曽川、白川、久住各滑空場と福井空港の 5ヶ所で訓練所を運営し、必要な保守並びに安全管理を行う。	必要な保守を実施し施設の保全 (詳細 資料2)
① 久住訓練所(NPO 九州)の運営を支援する。	継続実施
② 白川訓練所の宿舍問題を継続検討する。	継続実施
③ 滑空場諸施設(宿舍、会議室、格納庫、滑走路等)の管理を地区法人へ業務委託する。	継続実施
(2) 連盟共用機材の業務委託 滑空機、曳航用ウィンチ、車両、重機等の運用を地区法人へ業務委託する。	継続実施
<b>2. 総務担当業務</b>	
(1) 事業計画書(案)を作成する。	継続作成(理事会承認済み)
(2) 4月28日に慰霊祭、安全祈願祭を開催する。(朝日新聞社共催)	4月28日に開催
(3) 連盟90周年記念事業を含めた中期事業計画作成を進める。	2030年度の将来骨子について継続作成
(4) 滑空場別諸統計として、各地区活動実績の年間統計表を作成する。	継続作成(詳細 資料3)
(5) 連盟組織の役員人事案を作成する。(2020年度役員改選期)	継続検討
(6) 諸規程の整備を継続的に実施する。	継続実施
(7) グライダースポーツ手帳、ログブックを改訂発行する。	継続実施
(8) 学連データベース、ホームページを充実させる。	継続実施
(9) 連盟全体のコンプライアンス問題に対応する。	継続実施
(10) 連盟内活動のハラスメント問題に対応する。(ガイドライン)	継続実施
(11) 地区運営委員会と地区法人の役割と連携について継続指導する。	継続実施
(12) 新橋事務所の運営を行う。	継続実施
(13) 学生ボランティア活動等の整理とボランティアが業務執行に参画する体制を更に継続整備する。	継続実施
(14) 公益財団法人運営に関するセミナーに参加する。	事務局から1名参加

<p>(15) 学生組織基盤の強化</p> <p>① 各地区の学生委員会へ事務局が参加(年1回程度)し、学生の意見・希望等を直接聞く機会を設ける。</p> <p>② 学生役員にアンケートを実施し、学生のニーズを継続調査する。</p> <p>③ 加盟校学生部員数の拡大を進める。</p> <table border="1" data-bbox="240 600 914 943"> <thead> <tr> <th></th> <th>15年実績</th> <th>16年実績</th> <th>17年実績</th> <th>18年実績</th> <th>19年目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関東</td> <td>404</td> <td>438</td> <td>430</td> <td>416</td> <td>430</td> </tr> <tr> <td>東海</td> <td>123</td> <td>133</td> <td>112</td> <td>109</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>関西</td> <td>178</td> <td>169</td> <td>181</td> <td>153</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>58</td> <td>63</td> <td>67</td> <td>64</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>764</td> <td>803</td> <td>790</td> <td>742</td> <td>800</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ 西部地区活性化に向けて競技会等を通じて活動を支援する。</p> <p>⑤ 新入部員募集ポスターを作成する。</p> <p>⑥ 施設利用料金等について見直しを行う。</p> <p>⑦ 未加盟大学への加盟勧誘を行う。</p>		15年実績	16年実績	17年実績	18年実績	19年目標	関東	404	438	430	416	430	東海	123	133	112	109	120	関西	178	169	181	153	170	西部	58	63	67	64	80	合計	764	803	790	742	800	<p>中央学生委員会において実施</p> <p>調査を継続実施</p> <table border="1" data-bbox="946 607 1171 949"> <thead> <tr> <th>2019年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>450</td> </tr> <tr> <td>91</td> </tr> <tr> <td>167</td> </tr> <tr> <td>80</td> </tr> <tr> <td>788</td> </tr> </tbody> </table> <p>継続実施</p> <p>継続作成</p> <p>2020年4月から改定実施</p> <p>継続実施(機関紙送付等)</p>	2019年度実績	450	91	167	80	788
	15年実績	16年実績	17年実績	18年実績	19年目標																																						
関東	404	438	430	416	430																																						
東海	123	133	112	109	120																																						
関西	178	169	181	153	170																																						
西部	58	63	67	64	80																																						
合計	764	803	790	742	800																																						
2019年度実績																																											
450																																											
91																																											
167																																											
80																																											
788																																											
<p>(16) 評議員会・理事会、その他会議の開催と参加</p> <p>① 評議員会(6月)、理事会(5/6月、11月、3月)、中央学生委員会(6月、12月)、地区連絡会協議会(11月)を開催する。</p> <p>② 地区連絡会の活動(学生委員会、地区運営委員会、航空部長会等)に参加する。</p> <p>③ その他事務局定例ミーティングを含め必要な会議を主催する。</p>	<p>評議員会:6月8日開催</p> <p>理事会:5月18日、11月16日、2月29日開催</p> <p>随時参加</p> <p>原則毎週月曜に定例MTGを開催</p>																																										
<p>(17) 関連官公庁への対応</p> <p>① 総理大臣官邸、内閣府、文部科学省、スポーツ庁、総務省への対応を行う。</p> <p>② 国土交通省航空局への対応を行う。</p> <p>ア)法60条、79条、91条、92条、99条等の申請を取りまとめる。</p> <p>イ)滑空場訓練空域を調整する。</p> <p>ウ)その他航空局との折衝・情報交換等を行う。</p>	<p>随時対応</p> <p>随時対応</p>																																										

<p>③ 各地区航空自衛隊との飛行連絡会等へ参加する。</p> <p>④ 自衛隊入間基地と妻沼滑空場周辺の空域調整を行う。</p> <p>⑤ 埼玉県、岐阜県、大分県、熊本県、福井県、熊谷市、大泉町、千代田町、海津市、羽鳥市、愛西市、大野町、坂井市、竹田市、熊本市等への対応を行う。</p>	<p>宇都宮基地:11月28日、下総基地:2月19日、入間基地2月27日に参加</p> <p>継続実施</p> <p>随時実施</p>
<p>(18) 無線局の管理</p> <p>① フライトサービスの管理と無線従事者の選解任を行う。</p> <p>② HF無線局の管理を行う。(2021年5月31日期限)</p>	<p>随時実施</p> <p>随時実施</p>
<p><b>3. 経理担当業務</b></p> <p>(1) 予算書(案)・決算書(案)を作成する。</p> <p>(2) 会計処理規程・旅費規程に基づく経理処理を行う。</p> <p>(3) 保有資産の管理を行う。</p> <p>(4) 職員の給与・社会保険業務を行う。</p> <p>(5) 新橋事務所の庶務全般業務を行う。</p> <p>(6) 消費税の改訂に対する対応を実施する。</p>	<p>作成済み(理事会承認済み)</p> <p>継続的に実施</p> <p>随時実施</p> <p>定例業務として実施</p> <p>定例業務として実施</p> <p>2020年4月料金改定を実施</p>
<p><b>4. 広報・渉外担当業務</b></p> <p>(1) 主催競技会の広報</p> <p>① メディアを絞った広報活動の拡大</p> <p>② 全国大会競技グライダーモニター用ディスプレイの検討</p> <p>(2) 協賛企業並びに賛助会員の増強</p> <p>① 個人賛助会員を2018年度は新規募集目標を100名とし、年度末200名を達成する。</p> <p>② 団体賛助会員又は協賛企業を年間2社を目標として募集する。</p> <p>③ 賛助会員に「方向舵」を配布し魅力ある情報を提供する。</p>	<p>朝日新聞社、大学スポーツ協会と検討</p> <p>継続実施</p> <p>新規企業無し</p> <p>継続実施</p>

<p>(3) 連盟組織内広報（コミュニケーション）</p> <p>① 理事会、評議員会、地区連絡会協議会などの議事録を地区法人も含め、出来る限り公表してゆく。</p> <p>② 「JSAL連絡ニュースを年 4 回、四半期末に作成し、連盟の活動を広く連盟関係者、賛助会員、地区法人へ連絡する。</p> <p>③ 新入部員の多い大学の新生勧誘活動を紹介する。(9 月)</p> <p>④ 「メール連絡」、「ホームページ」、「方向舵」を積極的に活用する。</p>	<p>原則全てを公開</p> <p>継続実施</p> <p>機関紙「方向舵」で広報</p> <p>継続実施</p>
<p><b>5. 新規事業担当業務</b></p> <p>(1) 新規事業・施策</p> <p>① 加盟校会員、賛助会員にとって魅力ある学連への新規事業、施策を継続検討する。</p> <p>② 「スポーツ振興基金助成」の補助制度を活用し、学連費用負担を下げる申請内容を検討する。</p> <p>③ 加盟学生の増加に対応するため、活動可能な滑空場の開拓を検討する。</p>	<p>継続実施</p> <p>対象事業を検討</p> <p>継続実施</p>

以上

## 事業報告書の付属明細

### 資料 1

#### 重大インシデントの発生と概要報告書

2019年9月16日 小松空港基地祭へフライインするため JA01KY (HK36TTC) が JA2471 グライダー (ASK21) を曳航して福井空港を離陸、小松空港上空を周回して曳航したまま福井空港まで戻る予定であった。小松空港に到着して 12 時 03 分頃、旋回中 R/W24 エンド付近で曳航ロープ (直径 7mm 長さ 60m 重量 1.8kg) が高度 500ft で破断した。JA2471 は管制と連絡とり R/W06 で自衛隊側誘導路に着陸し、R/W24 側の自衛隊エプロン横に停止した。JA2471 は曳航ロープを離脱せず着陸したが、曳航ロープは無くエンド金具のみが機体に残っているだけであった。グライダー着陸直後、曳航ロープは曳航機が持ち帰ったものと予測したが、曳航機に電話確認したところ、曳航機側でも曳航ロープは破断しておりストップ金具しか無く、曳航ロープ部分はロープが破断 (2箇所ほぼ同時) した際に落下したと思われる。場所は小松 R/W24 エンドの誘導路 J 1 付近で、当日自衛隊の隊員により回収された。

## 事業報告書の付属明細

### 資料 2

#### 2019 年度訓練所の主な保守状況

訓練所	件名	金額	備考
妻沼	浄化槽清掃	160,000 円	環境保守
	男女風呂ボイラー交換	393,800 円	経年劣化保守
	給湯器修理代	112,750 円	故障保守
	滑走路補修工事費	328,560 円	台風劣化保守
	シャワー水栓交換	165,000 円	経年劣化保守
木曾川	教官室害虫駆除費用	234,000 円	環境保守
	教官室害虫駆除後の畳交換	147,960 円	環境保守
	危険物保管庫設置費用	616,000 円	安全対策
合計	—	2,158,070 円	—

### 事業報告書の付属明細

資料 3

訓練統計記録表(2019年4月～2020年3月)

		関東	東海	関西	西部	合計
加盟校数		24	9	15	11	59
部員総数		450	91	167	80	788
飛行回数		21,901	7,742		2,293	31,936
技能証明 取得者	教育証明	3	2		0	5
	事業用操縦士	0	0	0	0	0
	自家用操縦士	35	15		2	52
	二等整備士	0	0	0	0	0
	二等運航整備士	0	0	0	0	0
合 計		38	17		2	57
各校所有機材 & 共有機材	使用滑空機	73	12	23	11	119
	ウインチ	8	3		1	12
	トレーラー	44	19		7	70
	無線機	124	24	30	24	202

以上